

小樽・後志におけるヒューマンストーリーの発掘と地域資源化 プロジェクト代表者：後藤 英之（プロジェクトリーダー：高野 宏康）

1. プロジェクトの目的・概要

●プロジェクトの目的

小樽・後志地域では、近代以降、多様な歴史文化が展開していますが、その担い手たちが高齢化などにより年々減少し、記憶の風化が進んでいます。本プロジェクトの目的は、小樽・後志地域の人たちのヒューマンストーリーを調査・記録し、地域資源として活用することです。

●具体的な事業

学生が小樽・後志の地域情報、取材方法、記事のまとめ方を学んだ上で、同地域の昭和30～40年代の歴史・社会・風俗・文化などに詳しい人にインタビューして、記事にまとめます。その成果にもとづき、インタビュー集の発行、座談会の開催、パネル展示、Webサイト等による情報発信を実施し、着地型・交流型観光コンテンツなどの地域資源としての活用・定着化をめざします。

2. プロジェクトの進捗状況について（～H28.10）

●地域情報の学習および取材方法・記事のまとめ方の習得（採択後～平成28年7月）

授業（総合科目「グローバリズムと地域経済」）内で、小樽・後志地域の歴史文化および社会経済の特徴、取材方法、記事のまとめ方についての講義および、小樽市内バスツアーによるフィールドワークにより、地域社会に対する理解を深め、取材と記事作成方法を習得しました。

●インタビュー実施と記事作成（平成28年6月～7月）

小樽のまちや歴史に詳しい市内在住の23人に、学生が各3～4名のチームでインタビューを実施。1500字程度の記事を作成しました。



取材の様子（運河プラザカフェにて）

●ゲスト講師とのトーク&ディスカッション

ゲスト講師（2名：北海道新聞記者、ライター）を招聘、取材と記事作成方法についての講演および学生とのトーク&ディスカッションを実施しました。



北海道新聞（平成28年7月14日付）



博物館でのフィールドワーク

3. 今後の取組予定について

●インタビュー先と学生の公開座談会（平成28年12月5日、会場：三川屋）

花園エリアのインタビュー先5名と、担当学生による公開座談会を実施し、授業内容および成果について情報発信します（「小樽のひとに学ぶ～花園界隈のいまむかし～」）。

●インタビューと座談会をまとめた冊子発行（平成29年2月、1000部）

インタビュー記事23人分と公開座談会を収録した冊子を発行します。小樽市内での配布、市立小樽図書館等へ寄贈し、地域資源として活用できるようにします。

●後志地域で活躍する人と学生の公開座談会（平成29年1月～2月開催予定）

後志地域で活躍する人にインタビューした記事（2015年度マジプロで作成、タウンページ小樽・後志版2017、掲載）について、インタビュー先と学生の公開座談会を開催します。